

雪崩対策について

十勝山岳連盟 遭難対策委員長 宇野 吉彦

◎ 雪崩の危険性がある場所の通過 行きたくないが行くしかない場合も、

- ・ 危険な場所は速やかに通過する。
滞在時間を短くすることでリスクを軽減できる。
- ・ 間隔を空けて一人ずつ。
被害を最小限にする。全員が巻き込まれるのを防ぐ。
万が一の場合に状況を確認できる。
- ・ ザックの腰ベルト、ストックの手皮を外す、ポケット等のチャックを閉める。
流された場合に不利な装備をすぐに外せるようにする。
チャックが開いていると雪が入り込む。

◎ 万が一雪崩に巻き込まれた場合 雪崩に遭遇しないことが一番であるが、

- ・ 大声で叫ぶ
雪崩の発生を周囲に知らせ、巻き込まれるのを防ぐ
流される自身の位置を周囲に確認させる
- ・ 雪崩本体からの脱出
一番エネルギーを持っている中心部から出来るだけ遠ざかる。
滑走用具を付けている場合は横方向に逃げる。
木や岩をつかむ（速度が出る前に）
- ・ 表層に留まれるように努力する
※雪崩の死因は7割が窒息、3割が外傷である。低体温症が死因になることは少ない。
雪崩に巻き込まれた場合に頭部、胸部が埋没する完全埋没では生存率は50%となる。
窒息、完全埋没しないためには
泳ぐ、蹴るなど、もがいて少しでも浅い位置で留まれるように努力する。
口に侵入する雪を防ぐ、掻き出す。
雪崩に有効な装備を活用する。アバラング、雪崩エアバッグ等
雪崩に不利な装備は捨てる。ザックの腰ベルト、ストックの手皮、スキー等を外す(アンカー)
- ・ 流れが止まる前にエアポケットを作り、腕を突き出す、空間を作る。
※止まった瞬間にコンクリートで固められたように動けなくなる
エアポケットは埋没時の呼吸を確保してアイスマスクができるのを遅らせる。
腕を突き出すのは発見を早めてもらい、場合により自身で掘り出せる。
動かせられる部分は動かして空間を広げる。
- ・ 落ち着いてゆっくりと呼吸をして信じて助けを待つ
無駄な酸素、体力の消耗を防ぎ、仲間の声を聴く

※絶対に諦めない！

◎雪崩に有効な装備

- ・ 三種の神器

- 雪崩ビーコン(アバランチトランシーバー)

- 様々な機種があり、それぞれ特性が異なるため、熟知する必要がある。

- 必ず入山前に電池の確認をする。

- シャベル

- 雪を掘るためには不可欠。金属製で四角いブレード、伸縮式のシャフトが使いやすい。

- 鍬のように使えるものもある。

- プローブ(ゾンデ)

- 埋没者の位置を特定するために使用。240 cm以上、金属製でスケールが付いているものが多い。

- ・ スノーソー

- 弱層テスト時の雪の切り出し、雪洞、雪ブロックの作成に使用。



- ・ アバラング

- 頭部が埋没した際に呼吸の可能性を高めるためのレスキュー装備で、マウスピースから吸い、呼気を背部に排出することでアイスマスクによる窒息を防ぎ、救出までの時間を稼ぐ。

- ・ 雪崩エアバッグ

- ザックのショルダーベルトに取り付けられたトリガーを引くことにより風船が膨らみ、相対的に大きな利用して埋没を最小限にするものである。その他、もでるにより、頭、頸部の保護、縮んでエアポケットを作れるものもある。雪崩埋没リスク低減可能な唯一の装備である。



- ・ その他冬山装備

- 目出帽、手袋等首部分を保温する衣料。テルモス、ガスコンロ等の加温装備。ヘッドランプ、ツェルト、レスキューシート等の非常装備。